

五色池通信

303 2012年 2月 6日 発行

中土手に自然を戻す市民の会

東京都江戸川区東小松川3-35-13-204

〒132-0033 Tel 3654-7240 Fax 03-3654-7256

HP: <http://members2.jcom.home.ne.jp/nakadote/>

中土手の初仕事 オギ刈りと薪割り

1月15日、今年初めて作業。寒ーいー日でしたが、子供たちが大勢参加して元気に働き、遊びました。大人は池の周りのヨシやオギの刈り取り。子供たちにも運んでもらいました。

1月20日に大杉小学校の児童約80人が「中土手たんけん」に来るので、その自然遊びに使う、ヨシ笛のヨシやスダレ編みに使うオギ、弓矢の矢に使うセイタカアワダチソウの茎などの準備をしました。また、トン汁を作るための薪割りをしました。台風で倒れた庭木を丸太にして割る作業ですが、月桂樹は硬く粘りのある木で、子供では中々割れず、大人が本気になってやっと割れました。

みんなで持ち寄った具を集めてトン汁を作り、その残り火でさつま芋を焼いて食べました。あったかくてあまーい焼き芋は、冬の中土手ならではの味！



大杉小学校 冬の中土手たんけん

雨なし記録を更新して1月20日は雨となり、大杉小の中土手たんけんは31日に延期となり、昼食の関係で午前中だけ…午後の自然遊びはなくなりました。

31日は池に氷が張って、とても寒い朝でしたが、子供たちは元気に「目当ての学習」をしていました。五色池の氷が珍しく、たたいたり割ったり雪を投げたり。

ザリガニを探して池の脇をスコップで掘る子もいましたが、ザリガニは見つかりません。

大杉小の中土手たんけんは、春夏秋冬の4回行われ、今回が4回目の冬。4年生は今回が最後となり、全員でお礼の挨拶がありました。来年度もまた、新4年生が新3年生を導いて中土手にやってくるでしょう。



2001年に大杉小学校の子供たちが、担任の高瀬先生と一緒に「とんぼ池を見つけた！」といって五色池に来てから連続と続いている大杉小学校の中土手たんけん、また歴史を重ねていくことを期待しています。

佐藤正兵



行事予定

2月19日(日)荒川流域再生シンポジウム 嵐山

2月26日(日) 五色池草刈作業等 10時

3月10.11日 江戸川区水辺活動交流会

タワーホール船堀1階 10～19時(11日は16時まで)

(10日午前 新川で和船乗船会。区報で募集予定)

3月18日(日)五色池草刈作業等 10時

台風で倒れたヤナギを伐採・処理

9月の台風15号で倒れた中の島のヤナギ(写真右)を根元から伐採して枝も処理しました。2001年4月に中の島の周りを機械で深く掘った際に植え替えたものですが、ちょうど10年で根元の直径が20センチ余りの大きな木に成長していました。

この1本で、5月の炭焼きの薪は余るほどですが、五色池周辺ではこのほかに2本のヤナギが部分的に折れ、それも切り取って、処理しています。

一昔前なら、貴重な燃料ですが、現代ではまったく利用されていません。化石燃料に代わるバイオマス燃料・エネルギーとして活用を考えたいものです。薪ストーブがあればすぐに使えますよ！



スズメの巣箱作り 中土手では？

都会のスズメの営巣場所が少なくなり、スズメの個体数が減少しているといわれています。スズメは猛禽類からヒナを守るために、人家の屋根の瓦に巣をかけるのが一般的でしたが、最近の瓦は、スズメの入り込む隙間がありません。庭のスズメは樹木に付く虫を食べてくれる生態系に不可欠の存在です。

そこで、巣箱を作ってスズメの子育てを応援しようと思い、写真のような巣箱をつくってみました。我が家の柿木にも1個取り付けてみました。

3.6メートルの板で3個作ったので、あと1個を中土手に架けようと思っています。巣箱は穴の大きさによって利用する鳥の種類が変わってきます。野鳥の会の飯田さん聞いたところ、出入り口の穴の直径が、3センチだとスズメが、2.8センチだとシジュウカラが営巣するそうです。

江戸川区でもいろんな形で巣箱を作って木に架けたいものです。私の巣箱の設計図を描いてみました。板と金具(蝶つがい)・釘など材料費は500円以内でできます。板に図面を引き、前面の出入り口の穴と背面の取り付け用の穴を開けてセットを作れば、子供でも作れるものなので、巣箱作りを広めたいと思っています。佐藤正兵



スズメの巣箱 作り方

材料：厚さ13ミリ、幅135ミリ、長さ1200ミリの杉板(かんなをかけてないもの)
蝶番(ちょうつがい)60ミリ1、釘35ミリ30本、木ねじ2本(ふたを止める)

工具：のこぎり、かなづち、十字ドライバー、引き回しのこぎり

